事務局 *おはようございます。定刻前でございますけれども、委員の皆様おそろいですので、ただいまから、平成24年度の第1回京都市都市計画局指定管理者選定委員会を開催させていただきます。

本日は、都市計画局が所管しております公の施設につきまして、平成21年4月から指定されております現在の「指定管理者」の指定任期が今年度末をもって終了いたしますことから、来年度以降の「指定管理者」の選定を御審議いただきます。

委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、御出席賜り、誠にありがとうございます。

それでは、本日の委員会の事務局を御紹介させていただきます。都市計画局長の小笠原憲一でございます。

小笠原局長 *小笠原です。本日は宜しく願いいたします。

事務局 *都市企画部長の平井義也でございます。

平井部長 *平井でございます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

事務局 *私、都市計画局 都市総務課長の岡山でございます。

僭越ではございますが、委員長が選出されるまでの間、本日の司会を務めさせていただきます。また、本日の審議に関係しまして、各施設の所管課から関係職員が出席しております。該当の施設の審議の際の御質問につきましては、関係職員からの回答となりますので、あらかじめ御了承をお願い致します。

それでは、第1回目の委員会でもございますので、都市計画局を代表しまして都市計画局長の小笠原より御挨拶を申し上げます。宜しくお願いいたします。

小笠原局長 *高いところから失礼いたします。都市計画局長の小笠原でございます。委員の皆様方には平素より、京都市政、とりわけ都市計画行政に御理解と御支援を賜りましてありがとうございます。この場を借りて御礼申し上げます。

本日も大変お忙しい中、本日の会、また、一部の方には先週の現場の視察も行っていただきまして、本当にありがとうございます。御案内のとおり、京都市の行政、他の市と漏れずでして、大変財政状況が厳しい状況でございます。こうした中、その、同じコストでできるだけ高い便益を見出すために、市の職員も日々努力をしているわけですが、こうした中で、指定管理者制度と申しますのは、そうした中で非常に大きな効果をもたらすものだということで、原則、そういったものにしていこうというのが考え方でございます。ただ、そういった中でですね、そうは言いながらも、それぞれの施設が持っている特徴、本当にその効率性だけでいいのか、価格の安いものだけでいいのかといった視点もございまして、それとあとはあんまり私が申し上げてはいけないのかもしれないかもしれませんが、それぞれの管理している財団の成り立ち、こういったものもございまして。そうした中で、できるだけ市民にとっていい管理のあり方を模索していただきたいというのが趣旨でございます。そうした意味も含めまして、今回は、他の部ではあまりやっていないという風に聞いておりますが、またあの、前回参加いただいた方からも、そうした御指摘をいただいたと承知しておりますが、現地を見ていただき、実際の管理の状況、それから、どういった状況で、どんな管理がなされているかということをつぶ

さに見ていただく機会を設け、そうした、できるだけいい管理の仕方を皆さんにお決めいただくための、微力ながらではございますが、今回仕掛けを設けさしていただいたつもりでございます。本日は、5つの公の施設につきまして、公募の有無、それから、選定の方法、基準、それから募集要項についてご議論いただくこととしております。これから一年かけて、来年以降の5つの公の施設の管理をどうするかということを議論していただくわけでございます。今日は、本日はその第一歩ということでございます。5つの施設を決めるに当たりまして、若干ですね、時間が不十分かもしれませんが、是非、御熱心な、忌憚のない御意見を賜れば、私どもとしては大変幸いに存じます。簡単ではございますが、私からの御挨拶とさせていただきます。宜しく願いいたします。

事務局 *ありがとうございます。続きまして、お忙しい中、今回の選定等委員会の委員に御就任いただきました各委員の皆様を御紹介させていただきます。

学識経験者としてご審議をいただく 京都工芸繊維大学大学院教授の中川理様でございます。京都女子大学現代社会学部教授 榎村久子様でございます。佛教大学社会福祉学部准教授 緒方由紀様でございます。大谷大学文学部社会学科准教授 志藤修史様でございます。税理士 南部啓子様でございます。このほか、市民公募委員としまして、大嶋信介様でございます。

以上、6名の委員の皆様になります、どうぞよろしく願い申し上げます。
なお、誠に申し訳ございませんが、小笠原局長は他の公務が入っておりますので、ここで退席させていただきます。

なお、誠に申し訳ございませんが、小笠原局長は他の公務が入っておりますので、ここで退席させていただきます。

(小笠原局長退席)

事務局 *ここで、審議に入ります前に、指定管理者制度の概略について御説明申し上げます。

本市の指定管理者制度は、お配りしております「京都市公の施設の指定管理者の指定の手續等に関する条例」に定められました「京都市公の施設の指定管理者制度運用基本指針」に則り、運用されております。

この制度は、多様化する住民ニーズに、より効果的、効率的に対応するため、平成18年より本格導入されているものでございます。都市計画局におきましても、今回の審議内容にもございます5つの施設につきまして、平成18年度の導入時及び、21年度の更新時にご審議をいただいております。

今回は、その指定管理者の指定期間が平成25年3月31日を以って期限を迎えることから、翌4月1日以降の新しい指定管理者について、委員の皆様には「選定方法及び選定基準の検討」、「募集要項の内容の検討」、「審査基準に基づく審査」を行っていただくものでございます。

それでは、本日の審議内容の確認をさせていただきます。

本日は、「京都市公の施設の指定管理者の指定の手續等に関する条例」第2条に基づく公募を行うため、都市計画局で所管しております5施設のうち、「京都市嵯峨鳥居本町並み保存館」、「京都市景観・まちづくりセンター」、「京都市久我の杜生涯学習プラザ」、「京都市醍醐交流会館」の4施設については、施設ごとの指定管理者の選定方法及び選定基準を含みます募集要項について、御審議をお願いいたします。

残り「京都市醍醐駐車場」につきましては、非公募とさせていただいておりますので、これを踏まえまして選定要項等につきまして御審議をお願いいたします。

その御審議のあと、今後の選定作業に向けまして御意見を頂戴したいと思います。

ここで、お手元にお配りしております資料につきまして、確認をさせていただきます。会議次第、委員名簿、座席表、各施設ごとの募集要項及びパンフレット等。上の方から、町並み保存館、景観まちづくりセンター、生涯学習プラザ、醍醐交流会館、醍醐駐車場の順でございます。あと、各施設における平成22年度公の施設の指定管理者による管理運営状況、それと関係条例、以上、おそろいでしょうか。なお、本日は、配布資料にもあります「京都市都市計画局指定管理者選定等委員会設置要綱」に基づき運営致します。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

なお、審議の際における、該当施設の御質問につきましては、所管課からの回答となりますので、あらかじめ御了解をお願い致します。

それでは、はじめに、設置要綱第5条第2項に基づきまして、本委員会の委員長を選出をお願いいたします。委員長の選出は、同要綱により委員の互選によることとなっております。いかが致しましょうか。

南部委員 ○中川理先生を委員長に推薦します。

事務局 ＊ただいま、南部委員から中川理委員への御推薦がございましたが、御異議ございませんでしょうか。

全委員 ○異議なし。

事務局 ＊それでは、中川理委員が委員長に選出されましたので、この後の委員会の進行につきましては、中川委員長をお願い致します。中川理委員長、委員長席の方へお移りいただきますよう、よろしくお願い致します。

中川委員長 ○ただいま、委員長を仰せつかりました京都工芸繊維大学の中川です。よろしくお願い致します。

さっそくですが、まずは、設置要綱第5条第3項にあります、副委員長の指名を行います。副委員長は私が指名することになっているんですが、これについては南部委員をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

南部委員 ○よろしくお願い致します

中川委員長 ○次に、会議の公開についてですが、この点について、事務局から御説明をお願い致します。

事務局 ＊本選定委員会は設置要綱第7条により、原則公開とされています。ただし、同要綱第3条第2項に関わる事項、事業者の選定に係る事項を審議する場合は原則非公開となります。

本日、当該事項についての審議は予定されておりませんので、原則どおり公開とさせていただきますと思いますが、公開に先立ちまして、委員の皆様の氏名の公表の件がご

ございます。

京都市の基本指針では委員の氏名の公表も行うこととしておりますが、その時期については、選定委員会にお諮りすることとなっております。本日の会議を公開することは、本日時点で氏名を公表することになりますが、その点を踏まえて御議論をよろしくお願い致します。

また、公開した会議につきましては会議録を作成し、公表するということとなっております。議事録の署名につきましては、委員長、副委員長の署名にてお願いしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。本日、傍聴者として、一名の申出がございます。以上でございます。どうぞ宜しくお願いいたします。

中川委員長 ○今の説明によりますと、我々委員の氏名を含めて公開になるということです。この点も踏まえて、会議を公開してもよろしいでしょうか。

全委員 ○異議なし。

中川委員長 ○御異議がないようですので、本日の会議は公開して運営致します。事務局、よろしくお願い致します。

中川委員長 ○それでは、本題に入りますが、指定管理者の選定方法及び選定基準を含む募集要項について審議することとなります。平成21年度に指定管理者制度を更新してからの施設運営状況等についてどうなっているのかということ、まず簡単に事務局の方から説明をお願いします。

事務局 ○現在の施設運営状況等につきまして、簡単に御説明させていただきます。

指定管理者制度を活用する目的は大きく分けまして2つあります。ひとつが「住民サービスの向上」、もうひとつが「経費の節減」でございます。都市計画局の5つの公の施設におきましても、多様化する市民ニーズに、より効果的、効率的に対応するため指定管理者制度を活用し、運用を進めているところでございます。

お手元でございます、各施設の平成22年度の「公の施設の指定管理者による管理運営状況」いわゆる「個票」を御覧ください。これは、各施設の概要や運営状況の他、利用状況や収支の状況、利用者満足度の把握状況などについて記載させていただいております。

今回御審議いただく5つの施設におきます「住民サービスの向上」についてですが、個票の中に4としまして「施設の利用者満足度の把握」という記載がございます。こちらに各施設での状況を記載させていただいております。個々の説明は割愛させていただきますが、総体的な成果を申し上げますと、これまでの各施設の指定管理者におきまして、アンケートや面談等を通じて利用者の意見を細かく把握し、利用者からいただいた御意見につきましては、指定管理者が独自で行う自主事業や施設管理に活かすべく積極的に対応してきていただいているものでございます。

また、指定管理者による経費節減につきましては、指定管理者の収支状況を個票の中に3としまして「施設管理者の業務の運営状況」という記載がございます。この中の(3)に「指定管理者の業務の収支状況」を記載させていただいております。こちらにも個々の説明は割愛させていただきますが、総合的な状況としては、平成21年度と比較しまし

て黒字を拡大した施設もあれば、厳しい財政状況の下で経費節減に努めていただいているという状況になっております。

これらの状況から言えますことは、指定管理者制度を導入していることで、市民ニーズをしっかりと把握し、速やかに施設の管理運営に反映させるといったきめ細やかな利用者対応が出来ており、かつ最大限の経費の節減が図れていることから、今後とも5つの公の施設につきまして指定管理者制度を活用することで良好な運営管理を図ってまいりたいと考えております。

中川委員長 ○ありがとうございました。今回の審議をより有意義なものとしすように、現在の指定管理者における管理の状況等について概要を説明いただきました。

それでは、本委員会の本題であります、指定管理者の選定方法及び選定基準を含む募集要項について、これから審議致します。

5つあるわけですが、まずですね、京都市嵯峨鳥居本町並み保存館における指定管理者の選定方法及び選定基準を含む募集要項について、審議致したいと思います。では、これについて事務局からの説明をお願いします。

事務局 ○今回、5つの施設の御審議をお願い致します。会議の効率化のため、共通事項につきましては、ただ今からの説明にて執り行い、以降の施設で重複する箇所につきましては説明を省略させていただきますので、宜しく願いいたします。

以降の施設については、各募集要項の中に四角で囲っている個別事項につきまして、その部分を中心に御説明させていただきます。最初に、京都市嵯峨鳥居本町並み保存館について御説明いたします。恐れ入ります。お手元の要項をご覧ください。

以下、当施設を「保存館」と呼ばさせていただきます。

まず、「指定管理者の資格」についてでございます。

(1)の「法人その他団体で、当該施設の管理運営を行ううえで人的かつ財産的な管理能力を有していること」から、(7)の「次に掲げる団体でないこと（暴力団排除規定）」までが前回同様、市の基本方針にあるとおりでございます。京都市全体として例示規定しているものです。また、今回から(8)としてグループ応募の規定を追加しています。

「2 指定期間」でございます。指定管理者におけます、住民サービスの長期的かつ安定的な経営を目指すことも視野に入れ、市の基本指針上の最長となる4年間と考えております。平成25年の4月1日から平成29年の3月31日まででございます。

「3 施設の概要」についてでございます。名称、設置目的、所在地、施設内容、面積等について記載しております。

「4 管理運営に係る基本的事項」についてでございます。まず、「(1) 基本的事項」として、開館日、開館時間を記載しております。次に、「(2) 職員の配置」についてでございます。開館日は最低1名以上の職員を常時配置することとしています。「(3) 管理運営業務に係る費用」は、京都市が支払います委託料をもって充てることとします。参考で挙げております平成24年度の委託料の予算額257万5千円を上限に、公募において各団体が示した金額を、市会の議決を経て、委託料の金額としたいと考えております。なお、独自に実施する事業につきましては、京都市と事前協議を行うものとし、当該事業に係る費用については、原則として指定管理者が負担し、得られた収入は、指定管理者の収入としております。「(4) 直近の決算額及びその内容」は、公募される団体が収支計画をより立てやすくなるよう、情報提供するものでございます。「(5) 行政財産の目的

外使用許可」以降に記載しております内容は、他施設と共通となっております。3ページをご覧ください。「(6) サービスの向上」は今回から追加した項目で、施設利用者の増加に向けた取組を行うよう、努力義務を示しております。「(7) 物品の管理」につきましても、前回同様、良好な管理者として注意義務を付しておりますが、今回から、委託料で購入した物品の取扱いにつきましては、市有外物品と区別し、台帳により整理するよう明記しました。「(8) 業務の再委託」も、前回同様、包括的な業務の再委託は認めておりません。個別具体的な業務の再委託については、事前に京都市と協議を行い、協定書上に記載したもののみ認めることとしております。「(9) 調査・監査・検査」は、監査を受ける可能性があることを示しております。「(10) 秘密保持義務」, 「(11) 個人情報保護」, 「(12) 情報公開」, 「(13) 法令等の遵守」, それぞれについて、必要な措置を講じるとともに、法令を遵守するよう示したものでございます。「(14) 危機管理対応」は、緊急時等を想定した体制を構築することを示しております。4ページを御覧ください。「(15) 健康、環境への配慮」は、分煙や節電等、社会的意識の高まりを受けまして、今回から追加した項目でございます。「(16) リスクの負担区分」について、表にまとめてございます。詳細につきましては、協定書を締結する段階で、双方協議の上、定めることとしております。5ページを御覧ください。「(17) 各種報告書の提出及び公表」について、条例に基づく年度ごとの事業報告書と、それぞれの施設における各種定例報告書の提出を求めるものでございます。「(18) 事業の継続が困難となった場合の措置」及び「(19) 帳簿書類等の保存年限」については、今回から新たに追加した項目でございます。

「5 業務の概要」についてでございます。「(1) 保存館、付属設備及びその他の物品等の維持管理、安全に関すること」。保存館は伝統的建造物に指定されている建物であることから、施設及び付属設備等の管理、維持修繕に関して特記事項を記載しております。

「ア 保存館の保全及び警備」につきましては、警備会社による機械警備を実施し、時間外でも施設に異常がある場合には必要に応じて現場に急行し、状況確認及び対処を行える体制を取ることを明記しています。6ページをご覧ください。「イ 防災設備の維持管理」につきましては、自動火災報知設備、パッケージ型消化設備及び非常通報装置を適切に維持管理するとともに、消防法に基づきます点検及び報告を行うこと。さらに、随時、機械監視することや、技術者によります現地の点検を実施することなどを記載しています。「ウ 除草及び樹木の選定」につきましては、庭の除草及び樹木の剪定を行っていただき、良好な景観の保全にも率先して努めていただきます。「(2) 保存館の利用に供すること」については、それぞれ、公の施設であることから当然のことにはなりますが、記載しております。とりわけ、保存館では嵯峨鳥居本伝統的建造物群保存地区の概要や調度品の説明を含めた館内の案内を行うよう明記しております。「(3) 事業の企画、実施に関すること」。保存館の活用にきまして、設置目的にもあります講座、研修等に積極的に活用できる企画を求めています。なお、観光地ではありますが、土産物等を置くなどの営利事業については禁止しています。「(4) 保存館の利用制限に関すること」。保存館は終日禁煙としています。「(5) 京都市が必要と認める事業に関すること」。その他、業務の概要に関する特記事項としまして、実施する際には保存館の性格に鑑み、地元自治会との連携を図ることとしております。

7ページをご覧ください。「6 選定の手順」についてでございます。

本日、御審議いただいた後、6月29日に広報発表を行い、7月2日から募集要項等の配布を予定しております。もちろん、本日の御審議の結果次第では変更致しますので、あくまでも「案」ということでよろしくお願い致します。

質疑の受付は、7月9日から7月20日までとし、7月27日の質疑の回答を予定しております。

応募申請書・添付書類の受付は、7月30日から8月3日までのおおよそ1週間でございます。

必要と認める場合には、プレゼンテーションの機会を設ける予定でございます。これは後ほど御提案申し上げますが、複数応募のあった場合について行うこととしたいと考えております。

8月下旬ごろには、また皆様にお集まりいただき、第2回の選定等委員会にて、指定管理者候補を選定することとなります。

次に、応募の手続きについてでございます。「7 応募方法等について」でございます。

「(1) 提出書類」。応募には、別紙にある書類を提出することを要求しております。ただし、任意の団体におきましては、一部の書類の提出の免除について、相談に応じる旨を記載しております。これは、地域住民等々が集まった団体では、なかなか書類の提出が難しい部分があるため、その部分についての記載でございます。受付期間は、先ほど御説明したとおりでございます。受付方法は、持参に限りまして、特に、添付書類については、書類の確認等を行う必要があるため、事前に電話連絡を求めています。受付場所は、各施設の所管課となっております。

「(2) 質疑」。8ページをご覧ください。「(3) 回答」。質疑及び回答の時期については、先ほど御説明したとおりでございます。質疑については、電子メールでも受け付けを行います。受付期間内に京都市が受け取ったもの以外は受け付け致しません。受付場所は提出場所と同じ各施設の所管課でございます。回答については、ホームページに掲載される場合と文書にて回答する場合がございます。これは、公募案件がホームページ、非公募案件が文書にての回答することとなるものでございます。回答文は要項と同等の効力を持ち、募集期間中、各施設での所管課にて配布を行います。「(4) 追加書類の提出及び運営する施設等の実地調査」でございます。京都市が必要と認める場合は、追加書類の提出を求め、またはヒアリングを行うものです。「(5) 施設見学会」。これは、公募を行う施設における個別事項になります。業務の概要にもありまして、保存館は、伝統的建造物に指定されていることから、適切に施設の管理運営を行っていただく必要があることから、実際に施設をご覧になっていただいた上で、応募していただくという趣旨です。「(6) プレゼンテーションの実施」。こちらは、先ほども申しましたとおり、複数応募の場合に、委員の皆様にお集まりいただきまして、各応募団体から、提案説明を行いたいと考えております。以下、事務的な話となります。「(7) 著作権の帰属等」、「(8) 費用の負担」。著作権と費用の問題について、応募しようとする団体にあらかじめ了解いただくための記載でございます。「(9) 申請の辞退」。様式は任意でございますけれども、必ず正式な書面にて提出するよう求めるものです。「(10) 資料の取扱い」京都市が提供する資料の取扱いについての注意書きでございます。「(11) 留意事項」。応募しようとする団体及び応募した団体が、指定管理者の候補の選定に関しまして、後述します選定等委員会等の委員と接触することを禁じているものでございます。接触の事実が認められる場合につきましては、失格になることもあるので、厳しく表記をしております。

「8 指定候補者の選定」についてでございます。「(1) 指定候補者の選定方法」でございます。指定管理者の候補について、選定等委員会の意見を聴取したうえで、市長が決定するものとしております。この後、「(6) 協定書の締結」、「(7) 京都市会の議決及び指定管理者の指定」にあるように、候補者の選定後、仮協定書を締結し、議会への指定

議案の提案と議決を経たあと、本協定書の締結をもって初めて指定管理者として決定することになります。また、公募案件については、複数応募があった場合、第2候補、第3候補も合わせて選定します。「(2) 選定等委員会」。選定等委員会の役割及び委員の皆様のお名前を記載させていただいております。

9ページをご覧ください。「(3) 審査基準」。提出書類とヒアリング等の結果を基に、選定等委員会が次の基準にて審査を行います。まず、審査基準でございます。これは京都市の基本方針に沿ったものでございます。次に審査項目ですが、これは次ページ以降の表になったものでございます。各々の項目について、0点から5点の6段階の評価となります。0点は原則、記載がない場合等に適応されます。この点、類似の施設の運営実績については、1点から5点としており、実績がないものにつきましてはその旨を御報告致します。

こうした評価点に重要度に応じた係数を乗じまして算出しました得点の合計を踏まえまして、指定候補者を選定することとしております。この係数は所管課におきまして独自に設定しており、それぞれ係数として1もしくは3を付けております。

各施設におきまして、より重要であると認められるものにつきまして、係数の3を配分しておりますが、各施設とも全体で150点満点としております。

また、前回から今現在の指定管理者が再度応募してきた場合、その運営状況に応じて減点することとしております。その際、京都市全体で使用しておりますモニタリングチェックシートに基づき、運営状況を判断致します。

審査項目の分類としましては、「指定管理者としての適格性及び能力」、「事業運営に関する計画」、「経営管理に関する計画」、「管理に関する運営経費の縮減」、「現指定管理者の場合の施設管理運営状況に応じた減点」があり、「指定管理者の適格性及び能力」では、長期間安定的に一定以上の住民サービスが提供できるかを審査、「事業運営に関する計画」では、ハード施設の管理部分と、ソフト事業の展開といった両方をどのように執り行うか、また、優れた提案がなされているかどうかを中心に審査致します。それぞれを確実にを行うための裏付けと致しまして、運営体制やサービス向上の取組を審査内容としております。次に、「経営管理に関する計画」では、提案された企画がどのように金銭的な裏付けがあるかを審査します。最後に「管理に関する運営経費の縮減」では、単に数字のみの観点で、どれだけ経費削減策が示されているかといった審査でございます。

こういった審査項目、審査内容に基づき、評価点を配点していくかたちになります。

係数3を配分いたしました特徴的な審査項目につきまして御説明いたします。保存館はソフト事業の展開よりもハード施設の管理という観点が強く、伝統的建造物に指定された特殊な施設を大切に管理できる能力や、施設を長年にわたり良好に管理することができる経験を重視するため、施設の維持管理や類似の施設運営の実績の項目の係数を高く設定しております。

事業内容の分類の中では、嵯峨鳥居本伝統的建造物群保存地区の地域の魅力を伝える事業の企画、実施による集客力を重視するため、事業の企画・実施の項目の係数を高く設定しております。サービス向上の取組の分類の中では、地域との連携の項目の係数を高く設定しております。

また、独自項目について御説明いたします。「その他」の「その他評価すべき取組」に記載しております2つの項目につきましては、各施設におきまして、それぞれの施設で評価したい独自の項目を記載しております。保存館では、施設の広報及び宣伝活動への取組と施設案内向上の取組を評価すべき取組として追加しており、そのうち、広報及び

宣伝活動による集客力を重視するために、施設の広報及び宣伝活動への取組の項目の係数を高く設定しております。

11ページをご覧ください。「(4) 審査結果」でございます。指定候補者の選定は10月上旬の予定でございます。「(5) 指定候補者の選定等の公表」。公表につきましては、応募の概況、経過、応募者名簿等、審査内容の概要について、公表する予定でございます。「(8) 第2候補者及び第3候補者との交渉」。こちらは、指定管理者の指定等が成立しない場合、第2候補者、第3候補者と順次交渉することを明記し、それぞれの資格の有効期限について記載しております。

「9 その他」について、「(1) 業務の休廃止」、「(2) 指定の取消等」、「(3) 原状回復及び引継ぎ」、「(4) 市税に関する留意事項」、以上、応募しようとする団体により分かりやすくするため、記載しております。

12ページをご覧ください。「10 問い合わせ先」についてでございます。各施設の所管課について、記載しております。保存館につきましては所管課である景観政策課を記載しております。

次に、別紙でございます。各審査項目に応じました提出書類を求めています。前回はそれぞれにおきまして複数部の提供を求めておりましたが、より応募しやすくなるよう、パンフレットを除き各1部としました。都市計画局では、より審査しやすいものとするため、審査項目の独自項目に係る事項以外は、5つの施設全てで様式を統一したかたちでの募集としております。

長くなりましたが、説明は以上でございます。御審議のほど、宜しく願いいたします。

中川委員長 ○どうもありがとうございました。最初の審議ということで、共通事項についても詳しく御説明いただきました。

四角のところについては実際公募する時には取ったかたちで公表するとのことですね。独自のところを今後は説明してもらうことになるんですけども。

それでは、質疑に移ります。事務局から説明のあった嵯峨鳥居本町並み保存館の募集要項案について何か御質問等ございましたら、あらかじめ出させていただきますよう、お願いします。

横村委員 ○ちょっと細かいことになりましたけども、2ページの(4)の「直近の決算額及びその内容」についてですけども、いくつかありまして、ひとつは、「管理運営費（人件費含む）」178万というのがあって、「平成22年度の管理運営状況」の実績をさっき拝見させていただいたんですけども、会長1名、事務局会計1名、担当職員15名、計17名って書いてございますけれども、この全員の人件費が、178万の中にあるのか。これがひとつ。それから、5ページのところに、機械警備ということで、何かあれば見に行くということですけど、この警備費というのは、この機械警備のこの金額が計上しているにしては、思ったより少ないので、これが入っているのかということ。たぶん入っていないのではないかなと思う。それと、もうひとつ、6ページでございますけれども、6ページの(ウ)のところに「除草及び樹木等の剪定」というのがございまして、造園業者による樹木等の選定を年1回以上行うことというのがございますけれども、これはこの、あの、中にどこかに含まれているのでしょうか。造園業者に1回お願いすると書いてあるのですが、事務費でもないし、どこかに計上しているのか、今回から新たに付

け加わったのでしょうか。今回初めてなので、教えていただきたい。

所管課 *管理運営費の人件費についてですけれども、常駐の方を1名ですが、同じ方が毎日こられているわけではなくて、交代で来ていただいているので人数が多くなっています。経費としては常駐1名の経費となっております。それから、警備費のほうは、個票のほうでは、「警備・管理費」という記載になっておりまして、22年度でいくと23万7千円という数字が挙がってしまっていて、その中で賄っておるということでございます。「除草及び樹木等の剪定」については、2ページでいくと、「その他事務費」に入っております。

中川委員長 ○募集要項について、どの箇所が前回から変えているのかが重要だと思いますが、前回の時の要項でも、経費支出の記載等はありませんでしたから、今回も、同様の支出の記載となっているのですか。

所管課 *経費的には、入っている経費については前回と変えておりません。

中川委員長 ○人件費については、我々は先日現場を見たとき、確かに常駐1名で、地元にいるお仕事をお持ちの方が時間を作って交代でされていて、これで回っているんだろうなと思うけれども、他の経費が確かにこれでよくやられているなという印象を持ちますね。

南部委員 ○我々が見たとき、なんとというか、造園業者がしっかり手を入れた庭園という感じじゃなかったですね。きれいにはされているけど。常時は皆さんが暇なときに手入れされているという印象は受けましたよ。

中川委員長 ○プロがやっているという感じじゃなかった。

志藤委員 ○個票の方で、収支状況の「その他」が21年度と22年度では大幅に増額していますが、これが今先ほど言われているような造園関係なののでしょうか、それとも他の要因なのか教えていただきたい。これだけマイナスなのですが、今後もこれだけの赤字を出し続けるのかどうか。

所管課 *低木は管理者がやられてまして、高木などはかなり古い木もあるので、危険回避を含め、定期的に剪定業者に見てもらって、必要な部分については手を入れているので、多少年度によって、その他費用については変動するものと考えています。来場者の数も変動してきています。その辺のこまごました状況が変わると、もうひとつは、委託料には小修繕が含まれており、かなり古い建物ですんで、小さな修繕は管理者でやっていただきます。その箇所が、少しずつ増えてきているということもあるので、経費は少しかかってこようかとは思っています。それから、傷みが目立ってきておりますので、市の施設ですから、予算を取って、一定、来年くらいにはまとめて修繕をしたいなと思っておりますので、今後おそらく平準化してくると思っております。

中川委員長 ○京都市の施設ですから、大掛かりな修繕は市の事業としてやるわけですね。先日見たような、裏の庭なんかは、うまく改修されればすごくよくなると思う。毎日使っていて、こういうところを直していった方がいいんじゃないかというような提案を京都市さ

んにするという事は当然あってよいはずですが。しかし、そうした仕組みについては、要項には書いてはいないように思います。要するに、施設改善について、市への提案ができるかですね。管理運営は、その費用の中でももちろんやってくんですけども、管理に当たって、管理者のアイデアを受け入れる仕組みはあってもいいのではないかと思います。

所管課 *要項の3ページの「(6) サービスの向上」に、「適宜、京都市に報告すること」のあたりで、出てくるんですけども、実はこのあたりは、先生見ていただいて分かると思うんですけども、伝統的建造物群保存地区になってまして、我々も結構しょっちゅう行っていて、そのたびにお話を聞いたりですとか、ノートが備え付けてまして、それを拝見したり、毎月業務日誌が出てきまして、そこにも結構細かく「ここが傷んできた」などと書かれておりますので、しっかりと見ております。

中川委員長 ○次に、前回もそうですが、おそらく一番議論しなくてはいけないのが、10ページの評価点のところかと思えますけれども、これについていかがでしょうか。

志藤委員 ○いくつか「マニュアル等」という記載が目立ちますけれども、どこまでのクオリティのものを考えられているのか気にかかっている。現時点で、何かこういった内容など具体的なものは想定されているのでしょうか。

所管課 *こういうものにしなさいというのは、提示はしておりません。小さい施設ですので、現状としては管理者が毎日変わっていくので、自分たちがどのように管理するのか、案内の内容をマニュアル化されていますので、その程度で考えている。

中川委員長 ○確かにいきなりマニュアルというとな難しいと思う。

志藤委員 ○実際施設を見ておもったんですが、地元の方と融合しながらの部分が大きいと思うのですが、とは言うものの、ある程度のラインのところを守っていただくことなどを思うと、こういう風にしたほうがいいよなど、わかりやすく提示するというのが必要かなと、それを全てお任せするというのは、なかなか難しいことかなと思ひまして、具体的に、こういう風な内容のもの、というのが必要ではないかと。後ろの様式もぼくっとした様式になっていて、もう少し丁寧に対応することが必要ではないかと思ったりもしました。

中川委員長 ○これは、マニュアルが示されているかということ審査するわけですけども、申請するときに、マニュアルを出すわけではないのですよね。

所管課 *対応方法を見る部分ですので、こういうマニュアルを作りますとかそういう記載があればよい。

中川委員長 ○そうですね。マニュアルの中身までを見るものではないんですよね。

この書き方だと、マニュアルの中身まで判断するようになってしまうかもしれませんね。様式の方を見れば分かるのかもしれないけど。

あと一つ気になったのが、現指定管理者に対する減点についてですが、この施設だけ

ではないのですが、これをやってしまうと、うまくいっているところはいいのですが、色々と課題を抱えているところは一般的に行って不利になるということはないんですか。その課題が必ずしも指定管理者の責任というわけではないケースもあるだろうし。

事務局 *1つのものさしとして、今の指定管理されているところがベストというだけ目線ではなく、やはり、利用者の御意見を踏まえた中で、一定基準に至らないものは減点の対象として、しっかり見ていくべきかなと思っております。

中川委員長 ○減点最大5点とは150点の中の5点ですか。

事務局 *そうです。

南部委員 ○審査項目「その他評価すべき取組」として「京都市嵯峨鳥居本町並み保存館施設への広報及び宣伝活動への取組等」が係数3となっていますが、これは、具体的に言うと、実際に管理される方が、施設を実際に宣伝、広報されていくかということですか。

所管課 *そうですね。現在の指定管理者で言うと、ホームページ作ったりとか、いろんな催しでの御紹介をされていたりするのですが、どんな方法で広く知ってもらう取組をするかというのを記載してもらいたいと思っている。やはり知ってもらうことが何より大切なので。

南部委員 ○目立たないですもんね。

所管課 *ガード下のようなところにありますし、ここまできてもらうということがまずは大事だと思っています。

緒方委員 ○「運営体制」の「職員配置及び労働条件」には評価基準みたいなものはあるのか。実際、労働条件みたいな最低基準が示されていてこちらは判定できるのかどうか。それともそこは指定管理者さんにお任せで、出てきたものについてのみ考えるのか。

所管課 *基準は持っていないが、嵯峨で言うと常駐1名ということで、人件費を割り戻すと、とんでもない数字になっていないかとかが一つの基準になると思う。

緒方委員 ○人材育成もこの制度での市の役割だと思うんです。急にお答えするのは難しいとは思いますが、いい人、いい団体に来ってもらうためには選定基準がある方が選定がしやすいのではないかと。意見として是非お願いしたいと思う。

事務局 *一定、労働の基準の目安を一つの物差しとは当然持っておく中で、出てきたものがおかしければ、当然指導をしていくということになる。

中川委員長 ○労働条件だけでないと思うけど、冒頭の都市計画局長の挨拶にもあったけれど、指定管理者制度の難しいところは、経費を一番安く出してきたところだけがいいというわけではないということだと思います。理念の実現や人材の育成とか、そういったことを

相対的に考えて選定をすることが必要だと思う。

あと、10ページで全体を通して21年度のと看から大きく変わったところはどこですか。前回のときもろんな議論があつて、それを踏まえて今回の要項があると思う。そこを説明してください。

所管課 *「事業運営に関する計画」の「その他」の「その他評価すべき取組」の二項目については、前回はISOの取得ぐらゐの記載しかなかったが、もっと具体的に求めるべきものとして記載させていただいている。あとは係数ですね。より重点化をして、以前は、係数1, 2, 3を撒いてたわけだが、今回は1, 3ということで、重点化した評価をしている。

中川委員長 ○色々ご意見がありました。委員会の御意見を反映して、また次回、少しずつ改善していただくということで。今いくつかいただいたのは、修正意見というよりは、むしろ今後、こういう風にしたらどうでしょうかという、御意見だと思います。京都市さんには、これに基づいて、次回に向けたご検討をいただくということで、今回の要綱等について、どうでしょうか。事務局からの説明のありました案について、このままの形で行くということによろしいでしょうか。御異議ないでしょうか。一応挙手を取らせていただきます。

(全員挙手)

中川委員長 ○それでは、賛成多数ということで、このとおりに取り扱うという風にしたいと思ひます。それでは引き続きまして、京都市景観・まちづくりセンターにおける指定管理者の選定方法及び選定基準を含む募集要項について、審議致します。事務局からの説明をお願いします。

ただ、榎村委員につきましては、以前、京都市景観・まちづくりセンターの評議員に就任されていたということですので、京都市景観・まちづくりセンターの審議については、大変申し訳ありませんが、御退席いただきます。

(榎村委員 退席)

中川委員長 ○それでは、事務局の方からの説明をお願いします。

事務局 *続きまして、京都市景観・まちづくりセンターについて御説明申し上げます。以下、当該施設を「センター」と呼ばさせていただきます。

これからは、四角で囲んでおります各個別の事項部分について御説明申し上げます。

まず、2ページをご覧ください。「3 施設の概要」についてでございます。名称、設置目的等を記載させていただいております。

次に「4 管理運営に係る基本的事項」についてでございます。「(1) 基本的事項」につきまして、開所日、開所時間を記載しております。「(2) 職員の配置」についてでございます。センターではその専門性の観点から詳細に規定しております。特に、専門的な問い合わせ等への対応、図書コーナーでの管理と来客への対応、インターネットを介しました広報活動などを想定し、各項目を記載しております。3ページをご覧ください。「(3)

管理運営業務に係る経費」についてでございます。センターにおきまして、上限となります、24年度の委託料の予算額は、4,530万円でございます。なお景観・まちづくり活動に関する講座等の実施にあたりまして、発生いたします実費相当額を利用者から、料金を徴収する場合は、事前に京都市と協議を行うこととしております。また、その場合に得られた収入は指定管理者のものと致します。「(4) 直近の決算額及び内容」は、公募される団体が、収支計画をより立てやすくなるよう、情報提供するものです。

続きまして、6ページをご覧ください。「5 業務の概要」についてでございます。「(1) センター、付属設備及びその他の物品等の維持管理、安全に関すること」。「(2) センターの利用に供すること」。センターでは市内外や外国からの視察対応や修学旅行生への施設案内業務等があるため、特記事項を明記しております。「(3) 事業の企画、実施に関すること」。センターでは、単なる施設の管理だけではなく、施設を活用しましたソフト事業の展開も重要な役割を持っております。そのため、これまでの取組や実績を踏まえた記載と致しました。かなり詳細に記載されておりますが、項目で言うと、「ア 景観・まちづくり活動に関する相談事業」、「イ 景観・まちづくり活動に関する情報の収集、提供及び相互交流の促進事業」、「ウ 京のまちかど展示コーナーの運営事業」、「エ 景観・まちづくり活動に関する講座等の開催」、「オ その他、センターの設置目的に沿った事業の企画及び実施」があり、これらの実施を求めているものでございます。主要実施事業は、あくまで23年度の実施結果として、必ずしもこれら全てを実施しなければならないという訳ではございません。全く異なる提案があった場合でも、各項目の趣旨に合うかどうかの問題となります。「(4) 「新版 町家型共同住宅設計ガイドブック」販売に係ります公金収納事務」新たに追加した項目です。

次に8ページをご覧ください。「6 選定の手順」についてでございます。こちらにつきましては、共通事項ですので省略させていただきます。

次に、「7 応募方法等について」でございます。「(5) 施設見学会」につきましては、業務の概要にもありましたとおり、センターでは、施設を活用した事業展開が重要であり、また、合築施設であることから、この施設の管理運営につきまして、現施設を体験された上で、より現実味のある提案をもって応募していただくという趣旨でございます。その他は共通事項でございます。

「8 指定候補者の選定」でございます。「(3) 審査基準」でございます。センターの独自項目といたしましては、「事業運営に関する計画」の「その他評価すべき取組」に『「ひと・まち交流館 京都」内の他のセンター及び区役所・支所との連携』、『事業企画実施における市民活動団体等との連携』という内容の審査基準を設定させていただいております。「基本理念、団体概要」、「類似の施設運営実績」及び「事業の企画、実施」そして、ただいま御説明させていただきました独自項目につきましては、センターの設置目的、業務に沿ったかたちで、係数を3とさせていただいております。

説明は以上でございます。御審議のほど、宜しく願いいたします。

中川委員長 ○ありがとうございました。それでは、質疑に移ります。事務局からの説明の中で気になった部分等あれば、お願いします。

6ページ、7ページにある、セミナーの実施など、細かく記載があります。これはあくまで事業例として書いてはあるのだけれど、少し制約をかけるようなことになりはしないかと。自由な発想での提案を阻害することにはならないかと危惧しますが。このように書くことによって、「こういう内容の事を企画しなければいけないのかな」という誘

導のようにも見えます。ちょっとそれが気になりました。

所管課 *冒頭の説明にもございましたように、これに縛られるものではない、ということが前提なんです。講座という、漠然としすぎているということがありまして、分かりやすくするために例示として入れていますが、これはあくまで例なのだということをもう少し、強調した方がいいかもしれません。

中川委員長 ○そうですね。あるいは、景観まちづくり大学なんかはホームページで全部公開していますから、事業例については、ホームページ等を参考にご覧下さいとしてもいいのではないかと。要項ですから、要項にこれだけ書いてしまうと、ややちょっと誘導的になってしまうのではないかと思います。

所管課 *わかりました。ここにどうしても例示を書かなければならないというわけでもありませんので、表現等については、今の御指摘を踏まえまして修正させていただきます。

中川委員長 ○もう一つの懸念は、ここにこういう記載をすることで、これを設定した今の指定管理者に有利なように書いているんじゃないかというような、受け取られ方を懸念がある。

事務局 *今の部分、少し工夫させていただきます、直させていただきます。

中川委員長 ○あと、前回から大きく変わったところで言うと、11ページの表で言うと「その他評価すべき取組」の部分ですか。

所管課 *はい。そうでございます。

志藤委員 ○委員長のおっしゃられていることが私も気になっていて、条例に記載されている程度の列挙でいいのではないかと思います。

あと、図書コーナーがありますが、そこは、まちづくり活動に関する情報の収集、提供及び相互交流の促進事業の中の一つとしての位置付けですか。

所管課 *図書コーナーにつきましては、景観まちづくりセンターが入っております、ひと・まち交流館に、他に、市民活動センターやボランティアセンター等の施設がございますが、各センター共通の図書コーナーになっておりまして、管理として、まちづくりセンターが代表して管理しているというものです。

中川委員長 ○7ページの「(4) 新版 町家型共同型住宅設計ガイドブック」販売に係る公金収納事務なんです。この本だけというように見えてしまっていますが、「景観・まちづくりセンターが作ったものを販売する」というふうにすればどうでしょうか。

所管課 *委員御指摘の部分は今回追加した部分であります。実態から申しますと、現状は指定管理とは別に現指定管理者に個別に委託販売をお願いしています。毎年、個別に委託しておりますので、あらかじめ記載をしたという経過でございます。

中川委員長 ○特定の一冊だけというのは、奇異な感じがする。

所管課 ＊京都市が発行しているものですので、「本市が発行する書籍等の販売に係る公金収納事務」というふうに表現を改める事は可能であります。

中川委員長 ○それでは、いま出ました「事業の実施・企画に関すること」と「新版 町家型共同型住宅設計ガイドブック」販売に係る公金収納事務」のところを修正することで、景観・まちづくりセンターの要項等について、お認めいただくということによろしいでしょうか。

(全員挙手)

中川委員長 ○それでは、賛成多数ということで、そのとおりに取り扱うという風にしたいと思えます。

それでは、京都市景観・まちづくりセンターにおける審議が終了しましたので、槇村先生に再度議事に加わっていただきます。

(槇村委員 再入場)

中川委員長 ○次に、京都市久我の杜生涯学習プラザにおける指定管理者の選定方法及び選定基準を含む募集要項について、審議致します。事務局からの説明をお願いします。

事務局 ＊それでは、生涯学習プラザ指定管理者募集要項をご覧ください。以下、プラザと呼ばせていただきます。

まず、2ページをご覧ください。「3 施設の概要」でございます。施設の名称、設置目的等を記載しております。

次に、「4 管理運営に係る基本的事項」についてでございます。「(1) 基本的事項」では、開館日、開館時間を記載しております。「(2) 職員の配置」につきましては、開館日に最低1名以上の職員を常時配置することのみを記載しております。「(3) 管理運営業務に係る費用」では、本市が支払う委託料を管理運営に係る費用に充てることや、平成24年度の予算に関します施設管理運営に係る委託料を上限としまして、指定候補者が示した金額を、市会の議決を経て委託料といたします。また、独自に実施します事業に係る費用は指定管理者が負担し、得られた収入につきましては指定管理者のものとするを記載しております。参考数値として、24年度の委託料は624万2千円でございます。「(4) 直近の決算額及びその内容」につきましては、記載のとおりでございます。その他の項目につきましては、他の施設と同様の内容でございます。

続きまして、6ページをご覧ください。「5 業務の概要」についてでございます。「(1) プラザ、附属設備及びその他の物品等の維持管理及び安全に関すること」、「(2) プラザの利用に供すること」、「(3) 事業の企画、実施に関すること」、「(4) プラザの使用許可、施設の使用料の徴収に関すること」、「(5) 前各号に掲げるもののほか、プラザの運営等に関し、京都市が必要と認める事業に関すること」の5点を記載しておりますが、その他に「業務の概要」全般の特記事項としまして、「地元住民等の意見の聴取」をあげております。これは、プラザが地域の生涯学習活動の拠点として設置・運営されているため、

その管理運営や生涯学習事業の実施にあたっては、地元意見を聞き、その意向も配慮していただきたいというものでございます。

「6 選定の手順」についてでございます。共通事項で省略させていただきます。次に、7ページをご覧ください。「7 応募方法等について」にございます、「(5) 施設見学会」につきましては、業務の概要にもありましたとおり、プラザは、地域の方々の会合や各種講座といった地域活動の拠点となっていることから、実際に施設をご覧になっていた上で、応募していただくという趣旨で、希望者に対して実施するものでございます。

8ページをご覧ください。「8 指定候補者の選定」についてでございます。先ほど「業務の概要」の御説明の際にも申しましたが、当施設は、地域の生涯学習活動の拠点として設置・運営されております。この点を十分に御理解していただき、地域の意見や意向にも御配慮のうえ施設の管理運営にあたっていただけるか、という点を、特に重要視しております。

この点が顕著に見てとれる項目につきまして、係数を「3」とさせていただいております。具体的には、「施設管理・利用等」、「事業の企画・実施」、「利用者の意見反映」、「地域との連携」、「その他評価すべき取組」の5項目でございます。

「その他評価すべき取組」につきましては、当施設の独自目的となっており、1つ目が、ただ今の「地域と連携・協働し、生涯学習やまちづくりに寄与する事業等を実施した実績があるか」という項目でございます。

2つ目は、「施設や事業を効果的に広報・PRする方策が示されているか」という項目でございます。今まで以上に効果的・効率的に施設や事業を周知するための方策につきまして、具体性、実現性等を、委員の皆様にご評価していただけたらと思っております。施設の更なる利用促進の観点から設けた項目でございます。審査項目については、以上でございます。

10ページをご覧ください。「9 その他」につきましては、共通であり、11ページ「10 問い合わせ先」については所管課を記載させていただいております。

説明は以上でございます。御審議のほど、宜しくお願い致します。

中川委員長 ○はい、ありがとうございます。それでは、質疑に移ります。事務局からの説明の中で御質問等あれば、お願いします。

中川委員長 ○9ページの「その他評価すべき取組」で係数3を配分している「地域と連携・協働し、地元住民等の意向を踏まえた事業等を実施した実績があるか」の実績とは具体的にはどのようなことですか。

所管課 ＊事業を企画する際に、地域のニーズを事前に把握するなど、地元住民の意向を十分に踏まえて実施した事業の実績と言うことです。

中川委員長 ○現管理者以外から応募があった際も評価しなければならないわけですが、事業等とは、具体で言うとどういったものが想定されますか。

所管課 ＊例えば、生涯学習に関するイベントですが、この地域で実施したものである必要はありません。どのように展開してきたかという点を重視します。

中川委員長 ○なるほど。それでは、他に御質問がなければ、事務局から説明があった案全体について、賛成の方の挙手をお願いします。

(全員挙手)

中川委員長 ○それでは、賛成多数ということで、そのとおりに取り扱うという風にしたいと思います。

それでは、次に、京都市醍醐交流会館における指定管理者の選定について審議致します。事務局からの説明をお願いしたいと思います。

事務局 ＊続きまして、京都市醍醐交流会館につきまして御説明申し上げます。以下、交流会館と呼ばせていただきます。

募集要項の御説明の前に、今回の公募に至る経過につきまして、簡単に御説明申し上げます。

交流会館につきましては、平成18年度から指定管理者制度を導入しており、この後の京都市醍醐駐車場と同様、これまで非公募により、京都醍醐センター株式会社を指定管理者に選定し、運営してまいりました。

これは、交流会館がパセオ・ダイゴロー西館と一体的な施設であることから、このように取り扱いを行ってきたものでございます。

パセオ・ダイゴロー西館は、醍醐団地総合再生事業の中核施設として本市の第三セクターである醍醐センターが建設したものであり、交流会館をはじめ、駐車場や体育館、図書館等、本市の様々な公共施設とセンターが所有します商業施設等が一体となった醍醐地域発展に大きな役割を果たしてきている建築物でございます。

本市と醍醐センターとが区分所有している建築物であることから、当施設は消防法上「複合施設」となり、西館全体を一括管理する防災センターの設置が必須となっております。このため、当センターにおきまして、施設全体の防災防犯システムを一括して集中管理しており、管理規約により醍醐センターが管理者と定められております。

加えて、交流会館は、西館共有部分である2階アトリウムと接続するロビー、便所、幼児コーナー等の不特定多数の市民の方が自由に利用できる施設を有するなど、西館と一体的に管理運営することを前提に建設された施設でございます。

維持管理業務を醍醐センターの持分部分や西館共用部分と一体的に実施することにより、スケールメリットによる効率的な管理運営が実施できるとともに、交流会館独自の事情として、ロビー等の防犯監視業務を防災センターにおいて行う仕様となっていることから、平成18年度の指定管理者制度の導入以来、醍醐センターを非公募したうえで指定管理者に選定して参りました。

しかしながら、前回の選定時において、委員の皆様方から「今後、公募の方向で検討するよう」御指摘をいただいております。また、年々厳しさを増す本市の行財政状況の中、更なる効率的な行政運営が求められていること、さらに、本年4月に策定したばかりの「はばたけ未来へ！ 京プラン」の実施計画におきましても、「民間活力の積極的な活用」が掲げられていることから、交流会館につきましては、今回公募に変更し、広く事業者を募ることといたしました。

なお、公募の変更にあたっては、ロビー等の監視及び管理業務の実施や防災センターを管理する醍醐センターとの連絡体制の構築を新たに明記することとしており、醍醐セ

ンター以外の者が指定管理者に選定された場合におきましても、利用者に安全かつ快適に施設を利用していただけるよう募集要項を変更しております。

それでは、募集要項につきまして、四角で囲んでいる部分についてのみ御説明させていただきます

まず、2ページをご覧ください。「3 施設の概要」についてでございます。名称、設置目的等を記載しております

次に、「4 管理運営に係る基本的事項」についてでございます。「(1) 基本的事項」では、開館日は年末年始を除く毎日でございます。ただし、ホール及び音楽スタジオは、毎週火曜日を休館としております。開館時間は午前9時から午後9時までの12時間でございます。ただし、先ほども申し上げましたが、パセオ・ダイゴロー西館2階のアトリウムと一体的に共用する必要があるロビー、便所、幼児コーナーについては、西館の開館中である午前8時から午後10時の間は、交流会館の利用時間にかかわらず利用に供することとしております。「(2) 職員配置」でございます。交流会館の供用時間中は最低1名以上の職員を常駐することを義務付けております。「(3) 管理運営業務に関する費用」につきましては、参考数値でございますけれども、平成24年度予算における委託料6,005万1千円を記載しております。

また、指定管理者は、交流会館の設置目的を果たすために、一般利用者の使用に影響のない範囲内で、施設使用許可基準に基づき、指定管理者の創意工夫で自主事業を行うことができるとしており、自主事業を実施する場合は、市と事前に協議を行うこととしております。自主事業を行う場合の施設等の利用に係る使用料につきましては、指定管理者が負担することとし、指定管理者が負担し得られた収入については指定管理者のものとして取り扱うこととしております。「(4) 直近の決算額及びその内容」でございますが、平成22年度決算で6,151万8千円となっており、内訳は資料に記載のとおりでございます。「(5) 指定管理者の収入等」でございます。施設の使用料は、京都市の収入として取り扱うこととしております。

なお、今回の変更点といたしまして、交流会館の更なる稼働率向上を図るため、指定管理者の経営努力により、京都市の定める想定収入額より年度の収入額が増加した場合において、増加分に50%を乗じた額を、京都市から指定管理者に支払うことを予定しております。

想定収入額の設定のイメージは次ページの図のとおりであり、基本的には過去3年間の実績を基に定めることとしております。同様の取扱いを導入している本市の他施設を参考に定めたものでございます。

次に(6)から(20)は共通となっておりますので説明を省略させていただきます。

続きまして、8ページをご覧ください。「5 業務の概要」についてでございます。内容は各施設と同様でございますが、特記事項として、利用者のニーズを随時聴取するとともに、それに合わせた企画を積極的に実施し、設置目的に沿った有用な活用を図ることをお願いしております。

また、施設の運営方法及び管理方法の詳細につきましては、別紙の「京都市醍醐交流会館管理運営業務仕様書」に記載しております。

「6 選定の手順」は省略させていただきます。

次に、「7 応募方法等について」でございます。9ページ、「(5) 施設見学会」につきましては、業務の概要にもありましたとおり、交流会館は、パセオ・ダイゴロー西館との一体管理が前提で建設された施設であり、適切に施設の管理運営を行っていただく

ためには、実際に施設をご覧になっていただいた上で、応募していただくという趣旨でございます。

次に、10ページをご覧下さい。「8 指定候補者の選定」についてでございます。「(3) 審査基準」につきましては、審査項目における、交流会館独自の評価項目として、次ページの表中の「事業運営に関する計画」の「その他」の下の2項目「施設や事業の広報活動」と「自主事業の提案」を項目に入れております。この2項目とも交流会館の設置目的を踏まえ、できるだけ施設の稼働率の向上を図るため、設けたものでございます。また、係数につきましても、設置目的を踏まえ、施設の利用促進や地域との連携について、どのように考えて施設運営に当たっていただけるか、という点を、特に重要視しております。

次に、12ページにあります、「9 その他」につきましては、共通であり、次ページの「10 問い合わせ先」については所管課を記載させていただいております。

御説明は以上でございます。御審議のほど、宜しくお願いいたします。

中川委員長 ○はい、ありがとうございます。それでは、質疑に移ります。事務局からの説明の質問等ありましたら、お願いします。

この施設は、京都醍醐センターの施設と一体的になっているので、公募はなじまないということでしたが、交流会館のような施設については、きちっと公募するべきものであるという意見が前回出まして、今回は公募することになったということですね。そこで新たに出てくる問題として収入についてですが、インセンティブ収入というのを取り入れておられますが、こうした仕組みは一般的なものですか。

所管課 ＊はい。指定管理者制度を取り入れる場合は、利用料金制度や使用料インセンティブ方式などがあり、全ての施設ではありませんが、管理者の意欲を高めるためよく使われています。

中川委員長 ○11ページの「事業の企画・実施」の「設置目的を推進するために、優れた提案がなされているか」と「その他評価すべき取組」の「自主事業に積極的に取り組む姿勢があるか」で内容がかぶるのではないですか。また、インセンティブ収入を導入したのだから、結果的に自主的に取り組むことを進めているわけですから、係数は1ではなく3にしてはどうでしょうか。

所管課 ＊多少内容はかぶりますが、ただ、長年の課題である「どれだけ利用促進に頑張ってもらえるか」ということで係数3にしています。また、係数3にするのは全部で5つまでという全体スキームもありまして、このような配点にしております。

中川委員長 ○下の方は「自主事業に積極的に取り組む姿勢があるか」とあり、自主的なものであると、上は「設置目的を推進するために、優れた提案がなされているか」は設置目的にかかったものということで3にしているんですね。

所管課 ＊そうです。

横村委員 ○これまで醍醐センター株式会社は2ページの4「管理運営に係る基本的事項」の「開

館日」について、交流会館の中のホールと音楽スタジオが火曜日は休みということで、あとは開いているということですか。

所管課 *はい。そうです。

榎村委員 ○開館は午前9時から午後9時だけけれども、上記に関わらず、利用に供することとあり、つまり、人員配置に関わることだと思うが、時間帯も曜日もかなり複雑になっていて、そこだけの人員でまわすということが前提ですよ。

所管課 *そうです。そういったこともあり、これまでは非公募としていました。

榎村委員 ○そうだったんですよ。よくあることだと思うんですが、これまでうまく回っていたものを、一つを切り出すと、それだけでまわすということになるので、応募される方がうまく分かるかなあと、醍醐センターの方ならよく分かると思うけど、初めて応募する方は複雑かなと。

所管課 *施設見学会などで詳しく説明していきます。

南部委員 ○いわゆる建物の貸館業務をすればいいのでしょ、というところを取ってしまうのではなく、住民の交流のために作った施設であることから、そこを重視する必要があるのではないかと。今、自主事業はシニアのための音楽教室だけです。11ページの「その他評価すべき取組」の「自主事業に積極的に取り組む姿勢があるか」の配点を上げてもいいのではないのでしょうか。

中川委員長 ○そう。具体的にいうと、この部分を3で、「設置目的を推進するために、優れた提案がなされているか」を1にしてもいいのではないのでしょうか。指定管理者を入れることによって管理運営がよりよくなることを目指すのであれば、これはかなり重要ではないかと思えます。係数の入れ替えをお願いしたいと思えます。

所管課 *わかりましたその方向で修正します。

中川委員長 ○それでは他にありませんでしょうか。なければ、この案で、先ほどの係数を修正していただくということによろしいのでしょうか。

(全員挙手)

中川委員長 ○賛成多数ですので、そのとおりに取り扱います。

続いて、最後になりますけれども、京都市醍醐駐車場における指定管理者の選定について審議致します。事務局からの説明をお願いしたいと思います。

事務局 *続きまして、醍醐駐車場について御説明申し上げます。当施設につきましては、引き続き、非公募で選定させていただきたいと考えており、まずその理由から御説明させていただきます。

恐れ入りますが、選定要項の7ページ「6 選定の方法」をご覧ください。

非公募とする理由でございますが、当施設は先ほどの醍醐交流会館と同様、パセオ・ダイゴロー西館と一体的な施設であり、西館の地下1階に位置し、同館1階の防災センターにおける遠隔監視での管理を前提に設備が構築されている施設でございます。

防災センターは、京都醍醐センター株式会社が管理を行っており、駐車場管理業務と一体的に遂行することにより、効率的に運営することができ、また、同社が所有・管理します西館の商業施設と一体となった効果的な運営も期待できると考えております。

さらに、駐車場自体の構造も本市（120台）と京都醍醐センター株式会社（50台）の持分とが一体となっていることから、効率的に管理を行うため、本市が同社の持分を無償で借り受け、計170台の駐車場として一体的に運用しており、分離しての運用は困難であると考えております。

以上の点から、京都醍醐センター株式会社を非公募で選定させていただきたいと考えております。

続きまして、非公募をお認めいただけるという前提で要項を御説明申し上げます。非公募の場合であっても、市の基本方針に基づきまして、公募と同様の提出書類を求めることとなるため、同様の体裁を整えております。「募集要項」ではなく、「選定要項」として定めております。

それでは、内容につきまして、四角囲みをしている個別事項につきまして御説明申し上げます。

まず、2ページをご覧ください。「3 施設の概要」についてでございますが、名称、設置目的等を記載しております。

次に、「4 管理運営に係る基本的事項」でございます。「(1) 基本的事項」では、営業時間につきましては、午前0時から午後12時までの終日。ただし、利用時間は午前5時から翌日午前0時30分までとなっております。駐車料金につきましては、京都市駐車場条例に基づき利用者が負担しているものでございます。「(2) 職員配置」でございますが、「駐車場の供用時間中は最低1名以上の職員を常時配置すること」を義務付けております。「(3) 管理運営業務に係る費用」では、指定管理者は、駐車場の管理運営業務に係る経費について、京都市が支払う委託料をもって充てることとしており、参考数値でございますが、平成24年度予算額における委託料は4,397万9千円でございます。「(4) 直近の決算額及びその内容」でございますが、平成22年度決算で4,550万6千円となっております。内訳は資料に記載しております。3ページをご覧ください。「(5) 指定管理者の収入等」でございます。駐車場の使用料は、京都市の収入として取り扱うこととしております。また、今回の変更点として、交流会館と同様に、駐車場の更なる利用促進を図るため、指定管理者の経営努力により、本市の定める想定収入額より年度の収入額が増加した場合について、増加分に50%を乗じた額を、本市から指定管理者に支払うことを予定しております。(6)から(20)は共通となっておりますので説明を省略させていただきます。

続きまして、6ページをご覧ください。「5 業務の概要」についてでございます。特記事項としまして、利用者のニーズを随時聴取するとともに、それに合わせた企画を積極的に実施し、その設置目的に沿った有用な活用を図ることをお願いしております。また、市営駐車場を多数管理する建設局の募集要項との整合性を図るため、「京都市醍醐駐車場管理運営業務仕様書」を添付しております。

7ページをご覧ください。「6 選定の方法」につきましては、先ほど御説明させていただきましたとおりでございます。

「7 選定の手順」,「8 応募方法等」につきましては、共通事項でございますので、説明は省略させていただきます。

次に、9ページをご覧ください。「9 指定候補者の選定」についてでございます。「(3) 審査基準」でございます。次ページの審査項目における醍醐駐車場独自の評価項目といたしまして、表中の「事業運営に関する計画」の「その他」の下2項目「利用促進策」と「社会的弱者の利用に対する配慮」を項目に入れております。当施設の長年の課題である利用促進の向上と利用者誰もが使いやすい施設とするため、設けたものでございます。また、係数につきましても、利用促進策が引き続きの課題であること、また、地域発展の中核施設であるパセオ・ダイゴロー西館内の公共施設であり、地域との連携を図ることが非常に重要であることや、厳しい財政状況の中、より効率的な管理運営を図ることが重要であることから、それらの評価項目の係数を重視しております。

次に、11ページ「10 その他」につきましては、共通であり、12ページの「11 問い合わせ先」については所管課を記載させていただいております。

御審議のほど、宜しく願いいたします。

中川委員長 ○はい、ありがとうございます。それでは、質疑に移ります。事務局からの説明の質問等ありましたら、お願いします。まず、西館と一体的に管理するというので、駐車場については仕方がないのかなと思いますが、公募しないという点についてどうですか。

志藤委員 ○公募をしないのに審議をすることの意味と内容を教えてください。

事務局 ＊京都市で非公募として説明しているが、京都市の施設である以上、きちっとした管理をしていただく必要があり、現在指定しようとしている団体が適切かどうかの審議をいただきたいものであります。

中川委員長 ○原理的には○か×かですね。では、×になったらどうするかというのはありますが、低評価のものは管理者に伝えるしくみはあるのでしょうか。それがないと審議の意味が分からなくなってしまいます。

事務局 ＊特に、利用促進策向上が課題であり、どういうふうにするつもりなのかを審議をしていただきたいと思っています。

横村委員 ○まあ×にすることはないと思いますが、点数で出すならば、コンペなんかでよくある、基準に満たなかったらどうするかとかはありますね。最低点とかはないのでしょうか。大学でも、40点以上は可とかありますよね。あってもいいのかなと思うのですが、いいのでしょうか。市の考えはいかがですか。

事務局 ＊足り点は設定していません。審議の目安として議論の俎上となるようにと考えています。

中川委員長 ○今回は点数は我々がつけることになりますよね。点数を我々が出して「ハイ、終わり。」では採点する側として納得がいかない。仮に点数を下回ったときには、指導的といいますか、その内容を管理者に伝えられる、また、ここでの審議内容を活かしてもらえる仕

組みを考えていただきたいと思います。

志藤委員 ○私もまったく同意見です。社会的弱者等への配慮などしっかり考えて基準も入れていただいているので、こちらの方も特に独自の工夫点などについて、それはそれでお返ししたいし、いかがでしょうか。

事務局 *評価していただいた内容を管理者に伝えるしくみを検討させていただきたい。

中川委員長 ○それでは仕組みを考えていただくということをお願いして、このように取り扱うということでもよろしいですか。

(全員賛成)

中川委員長 ○賛成多数ですので、そのとおりに取り扱います。

中川委員長 ○最後に、今後の選定作業に向けた意見交換と言いますか、御諮りしたいことがありますので、事務局からの説明をお願いします。

事務局 *申し訳ございません。審議が終わった後ですが、久我の杜生涯学習プラザ指定管理者募集要項(案)で1つ誤解を招く点がありましたので、修正をさせていただきたく思います。2ページの4の(4)の直近の平成22年度決算で、1,337万円となっており、2行上の【参考】平成24年度予算における施設管理運営にかかる委託料が6,242千円となっており、これだけでみますと、京都市の委託料以外に、事業者側が700万円用意しないといけないように見えるのですが、その差の約700万円は3ページにございますように、工事費にかかるもので、緊急に修繕しないといけない状況がございまして、これは本市が出しているものです。修正させていただきまして、要綱として募集させていただければと思います。

中川委員長 ○はい、それでは修正していただくことでよろしいですか。

(全員異議なし)

中川委員長 ○賛成多数ですので、そのように取り扱うこととします。
それでは事務局をお願いします。

事務局 *2点について御説明させていただきます。

今回御審議いただきました審査基準による選定の具体的な方法についてです。選定の方法につきましては、今回から、委員自らの審査が原則となっております。したがって、施設所管課において応募書類のとりまとめをさせていただいた後、委員の皆様において審査をいただくこととなります。

次に、先ほども選定の手順の際にも申しておりました、申請団体によるプレゼンテーションの機会ですが、これまた前回と同様、応募が複数であった場合に行うということでもよろしいでしょうか。

中川委員長 ○事務局から依頼のありました2点について、何か御意見等ございましたらお願い致します。一つは、委員自らが審査するという事、もう一つはプレゼンテーションですが、複数の応募があった場合のみということでございます。よろしいでしょうか。審査については、あらかじめ聞いておりましたが、プレゼンテーションについては、前回同様の事です。よろしいでしょうか。

(全員異議なし)

中川委員長 ○賛成多数ですので、そのように取り扱うこととします。

以上を持ちまして、本日予定しておりました審議を終了致します。

次回の委員会では、今回の募集要項に基づき応募のありました事業者からの提案説明をうけること致します。日時及び会場につきましては、後日、事務局から調整のうえ、御連絡致しますので、よろしくお願い致します。

事務局 ＊本日は長時間、だいぶオーバーしてしまいましたけれども、本当にお疲れ様でした。長時間にわたる会議、大変お疲れ様でした。

ここで、事務局からですが、いま委員長からもございました次回の委員会の日程につきまして、皆様お集まりいただいているせっかくの機会ですので、できましたらこの場で調整させていただきたく思っております。

担当者からペーパーをお渡しいたしますので、御都合について御記入いただけますでしょうか。

御記入後、机上にそのまま残していただければ、事務局の方で回収いたします。何卒よろしくお願い致します。

また、本日お配りしております募集要項やパンフレット等についてですが、次回の委員会においても使用しますので、よろしければ事務局の方でお預かりいたします。もし、お持ち帰りのうえご覧になられるようであれば、次回の委員会の時に御持参いただきますよう、宜しく願いいたします。

本日は誠に長時間ありがとうございました。